



## 事業の進捗状況

東北農政局 和賀中央農業水利事業所  
豊沢川農業水利事業建設所長 齋藤 高志

今年4月から建設所長を拝命いたしました齋藤と申します。前任者同様よろしくお願いいたします。久保田理事長はじめ、豊沢川土地改良区の組合員の皆様には、平素より国営豊沢川農業水利事業の推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

コロナ禍でいろいろ制約がある中、本年度は取水施設、放流施設、管理事務所、網場設備の工事を進めております。また、小水力発電施設も3年後に電力と暫定関係できることになり、それに合わせ来年度から工事を進める予定です。本年度の主な工事の状況を報告させていただきます。

### 〔取水施設〕

取水施設改修は、平成30年度より3年間で、新たに“ステンレス製ゲート”に更新する計画で工事を進めてきました。今年度は、残りのゲート2門の更新、タラップや階段などの付帯設備の更新を行い3月までに完了する予定です。

### 〔放流施設〕

豊沢川に放流するゲートを据付けるために基礎の掘削やコンクリート工事を進めています。また、昨年度から工場で作成したゲートを3月までに据付けます。

### 〔管理事務所〕

現在の管理事務所が老朽化しているため、とにより新築工事を進めています。1階は鉄筋コンクリート造、2階は木造（CLT工法）の2階建てとなります。今年度中に建物を完成させ、来年度以降にダムを管理するための機器を設置します。

写真① 施工状況「放流施設下部工」

※放流施設の放流管理設部で重機が施工中



写真② 施工状況「管理事務所」

※1F壁コンクリート施工中



組合員の皆様には平素より当土地改良区の業務運営全般に亘り格別なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年の用水管理につきましては、四月二十六日通水開始の後、代掻き、田植えが順調に進んだものの、降雨が極端に少なく豊沢ダムの貯水量が急激に減水したことから六月十日に理事会、そして急遽、用排水調整・施設管理委員会を開催して対応策を協議し、中間の緊急減水措置を決定して節水対応して参りました。その後、連日の降雨によりダムの貯水量が回復したため、この措置を解除し、当初の用水計画に基づく通水を行ったところであり、この間、組合員・総代として水路等管理人の皆様のご理解とご協力に



理事長  
久保田 泰輝

ごあいさつ

改めて感謝申し上げます。また、豊沢ダム改修に係る国営かんがい排水事業につきましましては、一昨年度から本格的に取水施設や設備の改修工事が実施されているところであり、この併せて新たに計画している小水力発電施設に、かねてより懸案となっていた電力接続協議が進み、東北農政局から本年六月末日付けで東北電力との系統連系契約が締結されたこと伺ったところであります。今後、国営事業全体の工事が順調に進むよう願っております。

さて、当改良区は本年、創立七十周年の節目を迎えることが出来ました。これも偏に国、県、花巻市、北上市をはじめ関係機関のご支援・指導のもと、組合員のご理解とご協力、歴代役員員の多大なるご尽力の賜と厚く御礼申し上げます。

昭和から平成、そして令和という新しい時代に入り、国内外の農業や農村環境は急激に変化しており、管内もまたこうした時代の流れの中で大きな転換期を迎えております。地域をいかに維持し次の世代に継承していくか、この視点のもと、土地改良区としてその課題解決のため、地域の特性に応じたきめ細かな基盤整備を計画的に推し進め、併せて地域住民と一体となった環境保全活動等を継続していくことが重

要と考えております。悠々の時を超え、先人の英知により育んできた貴重な地域資源「水・土・里」を良好な状態で将来に引き継いでいくことが、今、我々に課せられた最大の使命でありますこと、創立七十周年にあたり、創立の原点に立ち返り、この地域の尊い財産を大切に、新たな農業の振興とともに地域の振興に向けて、役員一丸となって一層の努力をして参ります。

末筆になりましたが、未だ新たな感染症・新型コロナウイルスによる感染拡大が続いており、依然として社会経済への影響が大きなものとなっております。これからの晩秋そして冬にかけて、組合員の皆様におかれましては引き続きご自愛くださいととも、今後、自然災害もなく出来秋と穏やかな年の瀬を迎えられますことをご祈念申し上げます、ご挨拶いたします。

